

**人文社会科学系分野の意義と国立大学の果たすべき役割
～グローバル化社会におけるイノベーションの創出に向けて～
(中間まとめ)**

**平成27年3月31日
人文社会科学系の意義・役割に関する
ワーキンググループ**

目次

はじめに	1
1. 人文社会科学分野をめぐる議論	2
2. 人文社会科学分野に期待される役割	3
(1) グローバル化の観点から	
(2) イノベーション創出の観点から	
(3) 人材育成の観点から	
3. 人文社会科学分野における国立大学が担うべき役割	6
(1) リベラル・アーツの観点から	
(2) 学際的観点から	
(3) 人文社会科学系の研究者とそのための教育者養成（育成）の観点から	
おわりに	9

参考資料

人文社会科学系の意義・役割に関するワーキンググループ委員名簿	13
--------------------------------------	----

はじめに

- 本中間まとめは、グローバル化が進み、イノベーションの創出が重要課題となっている状況に鑑み、人文社会科学分野の意義と国立大学が担うべき役割について我々の基本的考え方を示すものである。
- 国立大学は、これまで蓄積してきた叡智を結集し、新たな知を創造し、優れた人材を創出することによって社会と世界の持続的発展に貢献することを使命としている。そしてそのために、人文科学、社会科学、自然科学各分野の高度な研究教育を遂行するとともに、その研究教育環境を活かして、学問の継承・発展と次世代を担う人材を育成するという重要な役割を担ってきた。
- 今日、グローバル化に伴う複雑で多様な問題が顕在化し、また、人類の発展に向けたイノベーションの創出への期待が高まっている。それに対して、人文科学・社会科学・自然科学の全学問領域を総体として擁している国立大学として、我が国の文化的科学的発展を担い、社会的使命を果たすことを意図して本中間まとめを記す。
- 多様な価値が交錯するグローバル化の本質を解明し課題を解決する方策を探究するには人文社会科学の高度な知見が有効でありかつ必須である。また、イノベーションは人文社会科学を含む科学・学術の創造性と先進的な技術開発が相まって初めて創出され得るのであり、人文社会科学の知の基盤を伴ってこそイノベーションの基盤が培われ創出されうる。
- そこで特に、グローバル化に伴う問題に対する人文社会科学が果たすべき役割と、人文社会科学とイノベーションとの関係、そしてさらに国立大学という高度な教育研究組織の意義をここに記す。

1. 人文社会科学分野をめぐる議論

- 平成26年9月に第3期中期目標・中期計画の素案の検討に資するものとして、国立大学法人評価委員会から「国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに関する視点」が各国立大学法人あてに通知された。その中では、組織の見直しに関する視点の1つとして、「人文社会科学系学部・大学院については、18歳人口の減少や人材需要、教育研究水準の確保、国立大学としての役割等を踏まえた組織見直し計画を策定し、組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むべきではないか」と、教員養成系学部・大学院とともに組織見直しの対象として重点的に記載されている。
- 人文社会科学分野については、「人文・社会科学の振興について－21世紀に期待される役割に応えるための当面の振興方策－（報告）¹」では人文・社会科学の振興方策として以下の4点が示されている。（1）分野間・専門間の協働による統合的研究の推進、（2）若手研究者の育成、（3）国際的な交流・発信の推進、（4）研究基盤の整備、である。
- 「リスク社会の克服と知的社会の成熟に向けた人文学及び社会科学の振興について（報告）²」においても、当面講ずべき推進方策として、（1）先導的な共同研究の推進、（2）大規模な研究基盤の構築、（3）グローバルに活躍する若手人材の育成、（4）デジタル手法等を活用した成果発信の強化、（5）研究評価の充実、が指摘されている。
- さらに、同じ科学技術・学術審査会学術分科会の最終報告「学術研究の総合的な推進方策について（最終報告）³」においても、人文学・社会科学の振興の必要性が記された。
- また、ミッションの再定義の際の「分野ごとの振興の観点⁴」では、「人文・社会科学、学際・特定分野は、人間の営みや様々な社会事象の省察、人間の精神生活の基盤の構築や質の向上、社会の価値観に対する省察や社会事象の正確な分析など重要な役割を担っている。（中略）特に、成熟社会の到来、グローバル化の急激な進展等の社会構造の変化を踏まえ、教養教育を含めた教育の質的転換の先導、理工系も含めた総合性・融合性をいかした教育研究の推進、社会人の学修需要への対応、当該分野の国際交流・発信の推進等、各分野の特徴を十分に踏まえた機能強化を図る。」とされている。

1 科学技術・学術審議会 学術分科会（2002.6.11）

（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/020601.htm）

2 科学技術・学術審議会 学術分科会（2012.7.25）

（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1325061.htm）

3 科学技術・学術審議会 学術分科会（2015.1.27）

（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1355910.htm）

4 文部科学省高等教育局、研究振興局（2014.3.31）

- 今日、人文社会科学分野に対しては、教育面では文系・理系という境界を超え、俯瞰的な視野を持って課題を解決できる人材育成への貢献が、そして研究面においても、環境問題、地域再生をはじめとして、多面的なアプローチが必要とされる課題への貢献が求められている。また、イノベーションの創出という国家的かつ世界的課題に対しても、国立大学における人文社会科学分野の教育研究に寄せられる期待は極めて高い。

2. 人文社会科学分野に期待される役割

(1) グローバル化の観点から

- 人文社会科学は、人と社会と文化を教育研究対象とし、自然科学とともに知の体系における主要な要素を成している。また、自然科学と同様、真理の探究を行いつつ、単に客観的実証的な事実を提示するのみではなく、人間の営みや社会現象を分析し説明すると同時に、それらの事象に対する価値判断や解釈をも学の対象とするものである。例えば、文学芸術作品や歴史的事象の実証的事実を解明するだけではなく、人間にとっての価値や意味を問うことも重要な使命である。そのような人文社会科学に対して、現在期待されている役割がある。
- まず、人文社会科学が今日とくに必要とされるのは、文化的他者をどのように理解できるのか、理解すればよいか、その道筋を示すためである。グローバル化の中で、とりわけ必要なのは他者との対話であり、自分には未知の事象や未経験の文化的環境に遭遇した際にも、異なる背景を持つ他者と対話する能力は、世界で活躍する人材には不可欠である。人文社会科学の知は、異文化を理解し対話する能力を育成するためにも必須である。
- また、グローバル化の進行が一国では物事を解決できない状況を生み出し、人類共通の課題として国境を越えた国際的協働によって対応しなければ解決に至らない課題も多い。その一例がエネルギーや環境の問題であり、文化的差異の問題を超えて、自然科学や社会システムの問題とも重なり合う。このような国境を越えた問題が今頻出している。
- これらの問題に対しては、人文社会科学と自然科学とが学問の枠を超えて協力し合うことも求められる。同時に、人文社会科学自体が、この今日的な状況に鑑みて、個別の学問に閉塞することのない学際的な性格を備えることも必要である。

- なお、環境問題や人口減少問題等、日本が世界の最前線を行くような課題は、元来、地域的国家的な範囲での問題といえる。しかしながら、その解決策を示すことが、世界の将来的問題の解決にも貢献することに繋がるのであり、この点においてもグローバル化した世界の中で日本の人文社会科学研究の進展への期待は多大である。
- そして、人文社会科学の研究成果がこれらの課題解決の役割を担うためにも、また、公共性の点からしても、これまで以上に人文社会科学研究の国際展開や発信力の強化が重要である。

(2) イノベーション創出の観点から

- イノベーションの創出は、国家的かつ世界的な課題となっている。「長期戦略指針「イノベーション25」(2007. 6. 1) 閣議決定」において、「イノベーション」は、「技術の革新にとどまらず、これまでとは全く違った新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと」とされ、「第4期科学技術基本計画(2011. 8. 19) 閣議決定」においては、「科学技術イノベーション」を「科学的な発見や発明等による新たな知識を基にした知的・文化的価値の創造と、それらの知識を発展させて経済的、社会的・公共的価値の創造に結び付ける革新」とされている。
- 科学技術の進歩は人類社会の持続的な発展を意図したものであり、そのためには自然科学と人文社会科学の調和が必要であること、それは人間の生活、社会、自然との調和をも意味することが科学技術基本法には記されている。科学と技術を担う主体は人であり、人の営みとして、人間社会の中でしかイノベーションは起こり得ない。その営みに伴う様々な価値を探求するのが人文社会科学であり、人間性豊かな暮らしに繋がるような価値の創造が、現代における人文社会科学分野の学問的特性といえる。また、科学と技術の根底・基底に位置する人文社会科学は、イノベーションの意義を長期的視点から見極める重要な役割も担っている。
- 一方、グローバルマーケットに目を向ければ、世界的な競争の中で、社会変革をもたらすイノベーションには大きな価値が見いだされ、新たな利益と富が生み出されている。日本発の優れた基礎研究の成果が必ずしも社会を変える大きな力になり得ていないのは、イノベーションが技術に偏重して理解されていることにも一因であろう。また、イノベーションは理系の文脈で語られることが多いが、人文社会科学を含む科学・学術の創造と先進的な技術開発が相まって初めて創成され得るのであり、人文社会科学の知の基盤を欠いた技術革新は、単に直接的で可視的で量的な発展をもたらすに過ぎない。

- つまり、イノベーションは単なる科学技術における発見、発明、開発等による技術革新だけでは不十分であり、人文社会科学の知を基盤にした社会的ニーズといかにして適合し社会を変える力を持つかが重要である。変化の激しい現代社会の中で、社会状況の分析、把握が適切になされ、社会を変革し、利益と富を生み出し、技術革新への更なる投資を可能にするイノベーションこそが国の将来を開くはずである。

(3) 人材育成の観点から

- 人文社会科学は、人間の根本的な在り方を育成する機能を有しており、人材を育成する基本となる学問分野である。人文社会科学は人間的なもろもろの事象を対象としており、この学問を通して知的、芸術的喜びや人間としての倫理を自ら知ると同時に他者と共有、共感しあえるならば、それは豊かな生を人に与え、自身と社会をより豊かなものとしてくれるからである。
- この点からしても人文社会科学の知識は理系の学生にとっても必要である。科学が社会のために存在するならば、人と社会の在り方について一定の知識をもち、社会が何を必要としているかを常に考えて研究することが理系人材にも求められるからである。むしろ、社会は同時に人文社会科学を主として専攻する人材を必要としている。人間や社会の在り方を考察し、社会の求めるものを広い視野から洞察する能力に加えて、複雑な人間社会の中で様々な問題を的確に理解、判断し、解決に結びつけられる中核的人材の育成は重要である。
- また、現代の社会状況においては、文理融合型人材の育成という視点も必要になっている。例えば、環境、エネルギー、医療、生命分野など、自然科学分野だけではなく、人文社会科学分野を含む問題に対して、文理の枠を超えた融合分野として、研究、教育し、問題を解決に導くことができる人材を育成することは喫緊の課題といえる。そのため、新しい人材育成のためのプログラムを文理共同で創り上げるとともに、自らも相応の自己変革を行い、文理融合的な人類の重要課題の解決に資することを目指さねばならない。
- 加えて、文理共鳴の推進も必要である。それは、高度に専門化が進んだ学問領域にあっては、独自の専門性を深化させると同時に、その過程で他分野との協力、共鳴を進め、より大きな社会的成果をあげることを目指すことである。例えば、高度な医療技術と工学分野の連携に加え、経済学や法律学との協力により、更に有意義な社会的効果を上げることが可能である。そのためには、他分野の理解や他分野とのコミュニケーション能力が求められる。
- なお、社会からの要請に沿った人材の育成に留まるのではなく、社会の様々な分野や領域において、市民との対話の中で人文社会科学の知による考え方の指針を示し、それに基づいて自ら活動できる人材の育成も重要である。

3. 人文社会科学分野における国立大学が担うべき役割

- 複雑な課題に直面する時代にあって、人文・社会・自然の全領域を総体として擁する国立大学は、これまで蓄積してきた叡智を結集し、新たな知と優れた人材を創出することによって社会と世界の持続的発展に貢献することを使命としている。
特に国立大学は人文、社会、自然、学際的各分野の高度な研究を遂行すると同時に、それらの高度な研究に裏付けられた教育を提供し、日本と、そしてグローバル化する社会の文化的科学的発展を担ってきた。つまり、文系、理系という分野に偏ることなく、バランスの取れた総合的な研究と、時代を担う人材育成とが一体となって機能していることが国立大学にとって重要なのであり、これこそが国立大学が担うべき役割である。
- 科学技術の進展と社会状況の変化は、人類が初めて経験する急激な変革である。このような変動の時代だからこそ、広く知の基盤を維持しつつ、一時の流行に流されることなく、また、短期間で役に立つかどうかを判断せず、恒久的で持続的な発展を目指すことが重要である。目先の商業原理を超えて、人文社会科学分野を含む広範な知の基盤を長期的に形成・維持・発展させることができる組織として国立大学は存在の意義を有する。
- いわゆる文系、理系の区別無く隙間のない広い知の基盤を維持することは、一見短期的には非効率のように見えるかもしれない。しかし、昨今の状況を見ると、大きなイノベーションは境界領域で起こることが多く、このような知の基盤は我が国が持続的に発展していくために必須である。長期的な視点で、隙間の無い知の基盤を形成しつづけ、イノベーションのための土壌を豊潤に保つことが必要である。その上でさらに、全国に存在する国立大学には、それぞれの地域の自治体や産業界と連携し、「地域創生」の拠点としての役割も期待されている。
- このような問題意識に基づき、以下、3つの観点、(1) リベラル・アーツ、(2) 学際性、(3) 人材育成、とくに研究者教育者の育成、について述べる。

(1) リベラル・アーツの観点から

- 中世以来、欧米の大学では文理の区別はそもそもそれほど厳密なものではなく、総合的な人間知としての学問研究を重んじる傾向が強かった。
多くの国際的なトップリーダーは固有の専門領域に限らず文系理系の知識を広く身につけており、また、イノベーションを起こす人材は文理の別のない知識基盤によって育まれることがある。また、理系人材であっても人文社会科学の知識、例えば企業経営、知的財産、経営システム等の知識を身に付けていることも求められる。この点においても人文社会科学は現代社会で活躍するためには必須である。

- 一方、日本においては、戦前より文理が分離され、より効率的な高等教育が組織されてきた。しかし、現代の複雑化する課題解決に必要とされているのは、学問的成果を文理の区別なく適宜援用し、効果的に活用していく総合的な能力である。これらの総合性は、思想や哲学、文学芸術など人間によって創造された「文化的価値」を研究対象としている人文社会科学を学び研究することによってこそ育成されうる。理工系の学生にも人文社会科学系学問を大学で学ぶことで、広く知の基盤を身に付け、知の可能性を拓くことができる。
- また、「人間が創造する価値」と「人間そのものの価値」は、今日の高度に産業化した世界においてはこれまで以上の意義をもつ。効率化や高速化、生産性が経済成長にとって必須であり、そのために科学的先端性が重視される。それに伴う生命倫理の問題も、人間的価値の問題と密接に関わっている。つまり、人間の価値の問題、そして人間によって創造される価値の問題の多くは自然科学的な学問成果と深く関係する。
- これらの今日的な問題を深く考察し、適切な判断に至るためには、理工系学生が人文社会科学系学問を学ぶだけではなく、逆に、人文社会科学系学生が自然科学の学問基盤を大学で学び取る必要もあり、さらに、それを教授しうる高度な研究の裏付けも必要である。国立大学は総体としてその環境を整えている。

(2) 学際的観点から

- 今人類は解決の容易ではない複合的な問題に直面している。戦争と平和の問題、価値観の対立の問題をはじめとして、環境、医療、年金、人口、世代間格差、都市、地方、移民、貿易問題など、いずれも単に政治のみ、経済のみといった単一の要因によるのではなく、多様な要因が深く関係し合い、解答の方策は個別的学問によっては得られない。これら複雑で複合的な要素から成る課題に対しては、これまでとは異なったアプローチが求められている。
- それらの課題に対しては学際的なアプローチが有効である。そのためにも、現代社会の多様な要因を解明し、真に人間性豊かな暮らしに繋がるような価値の創造を特性とする人文社会科学の言及と教育・研究は不可欠である。人文社会科学、自然科学が個別の学問に閉塞するのではなく、適宜学際性を発揮し協力しあって、現代の課題に向き合うことが必須である。
- これまで、国立大学は理工系分野において、多くの先端的研究によって学術的成果をあげて来たが、社会が一層複雑化し変革期を迎えようとしている今、これらの学問的成果を新しい社会的価値に転換し、あるいは新たな価値を創造していく素養

を身に付けた研究者・技術者が期待されている。つまり、専門的な学知を所与の社会的場面へと転換できる総合的知性が必要なのである。そのためには、理工系分野においても人文社会科学の教育を受け、その学際的な知を、それぞれの局面での価値判断に適切に生かせる水準にまで学ぶことが求められる。また、それを可能にする学際的観点からの研究も重要であり、国立大学は教育研究の両面でその環境を高度な水準において提供している。

(3) 人文社会科学系の研究者とそのための教育者養成（育成）の観点から

- 人文社会科学系学問は、人類が長らく培って来た諸文化や人間精神、社会の在り方を研究対象とする学問である。それらは、特定の文化的社会的文脈の中で生まれその経緯と切り離しては存立することができず、その学問的成果そのものが文化、精神、社会を形成している。日本の国立大学においては、これまでに継承してきた日本の人文社会系学問の固有の価値を今後も発展させていく使命を担っている。
- また、人文社会科学系学問は、その性質上、自然科学を含むあらゆる学問を総合的な観点から相対化し観察分析することも可能である。そこで、個別の学問の固有性の今日的意義を明示し、それら学問の多様性を確保していくことと同時に、諸学問を総合し融合する着想を提供することをも国立大学の人文社会科学系学問は担いうる。
- 今日、国立大学における人文社会科学系学問の公共性を現代のグローバル時代の諸課題と結びつけて行く様々な取組が求められている。そのためには学部・大学院において高度な教育研究を実践し、学問的価値を継承すると同時に今日的課題に取り組むことのできる人文社会系研究者の養成が必須である。そして、このようにして養成された研究者は、日本各地の国立大学のみならず、公立大学や私立大学においても、次世代の人文社会科学系学問の教育研究を担う人材となることが期待される。
- さらに、今日のグローバルな現代社会の問題はローカルな問題群と表裏一体をなしている。そこで、国際的な場面で活躍できる人材と同時に、ローカルな共同体の問題においても解決の糸口を見いだせる人材の養成が求められている。国立大学の人文社会科学系研究者は学部・大学院の教育活動において、これらの両面的な能力を持つ教育者の養成を行う使命を担っている。

おわりに

- 次世代の教育研究を担い、社会をリードする人材を育成し、固有の学問価値を蓄積し継承し、創造するという点において、国立大学が担う役割は多大である。国立大学は、高度な学部・大学院教育を提供し、特に人文社会科学分野における大学院教育の大部分を担い、研究者の養成を通して、これまでも社会的使命を確実に果たし続けてきた。そして、大学の地域と規模、機能を越えた人材供給源としての役割を果たすとともに、我が国全体としての厚みのある研究開発力とその多様性の確保に寄与してきている。

- 先を見通せない変動の時代だからこそ、短絡的な経済効果だけでなく、長期的な視点を維持し、グローバル化に対応した知性を醸成させ、イノベーションの土壌となる隙間の無い知の基盤を形成、維持、発展させることが、我が国が発展していくために必要である。その使命を果たし続けることにこそ、公財政支出を受ける国立大学の存在意義があり、人文社会科学分野の研究と教育はその一翼を担っている。
このことを明示するために国立大学自らが人文社会科学分野における教育研究の成果を積極的に社会に還元することが期待されている。

- 加えて、国立大学のそれぞれの地域における役割も重要である。
1つは教育の機会均等という点からであり、私立大学に比べて授業料が安価である国立大学が、大学への進学を保証している状況がある。
また、国立大学は地域の活性化の拠点として、地域におけるシンクタンク機能を果たすとともに、地域のオピニオンリーダーとして、世界的な視野の中で地域の発展を先導する機能を有している。これは、現在、「地方創生」として政府内外で盛んに議論されている内容を含んでおり、今後この役割も更に重要になるだろう。

- グローバル化が急速に進み、イノベーションへの期待が高まる現代の状況にあっ
て、人類と社会の持続的発展を実現するために、国立大学の教育と研究は総体としてこれまでにない重要な役割を担っている。その際、特に高度な人文社会科学の教育と研究の高度化と人材の育成は、人類の未来を創造するために欠くことのできない国立大学の主要な機能なのである。

参 考 資 料

人文社会科学系の意義・役割に関するワーキンググループ委員名簿

人文社会科学系の意義・役割に関する
ワーキンググループ委員名簿

座長	羽入佐和子	お茶の水女子大学長（副会長）
委員	平野俊夫	大阪大学長（大学評価委員会委員長）
〃	福田秀樹	神戸大学長（経営委員会委員長）
〃	濱田純一	東京大学長
〃	高田邦昭	群馬大学長
〃	鈴木邦雄	横浜国立大学長
〃	山内進	前一橋大学長
〃	一井眞比古	国立大学協会専務理事
〃	木谷雅人	国立大学協会常務理事